

博物館と学芸員の仕事

井上 尚 明

埼玉県には多くの博物館・美術館・資料館などの施設がありますが（2013年8月現在、埼玉県博物館連絡協議会に加盟している館園は、公立・私立・大学立・財団法人などをあわせて81あります）、県立の博物館施設では昭和44年に開館したさきたま資料館（現在のさきたま史跡の博物館）が最も古い博物館です。しかし、ルーツをたどっていくと、当館が県立館ばかりではなく、博物館・資料館としては県内で最も歴史のある施設として挙げることができます。大正10年（1921）に秩父鉄道によって鑛物標本陳列所が長瀬町の現在の場所に開設され、その後昭和24年（1949）には秩父自然科学博物館と名称変更し、昭和56年（1981）に埼玉県が博物館を引き継いで新たな施設を建設し、埼玉県立自然史博物館となりました。県内唯一の自然系総合博物館として開館した当館は、平成18年（2006）、埼玉県立博物館施設の再編によって埼玉県立自然の博物館となり、平成23年9月から約1年の施設改修工事を経て平成24年（2012）10月6日には再オープンを果たしました。

当館は、名称や組織を変更しながら90年以上の歴史を持つ博物館ですが、同じ長瀬町内にあり、考古資料から歴史資料、さらには岩石などの自然系資料も収蔵している長瀬総合博物館は、当館の再オープンとすれ違いうように、56年の歴史に幕を閉じました。県立の各博物館では、長瀬総合博物館の展示・収蔵資料の調査を実施し、国指定重要文化財や県指定文化財など、貴重な文化財や資料が散逸することのないよう所有者の方と話し合いを進め、各分野の博物館で管理・活用できるよう調整を図っているところです。博物館の役割としては、今回のように資料の収集・保管・管理のほかに、展示・公開と調査・研究があり、これらの役割を実際に担っているのが各博物館に配置されている学芸員です。貴重な資料を将来にわたって管理・保管しながら、公開し活用できるようにすることが博物館の仕事といえます。

学芸員を英語に訳すと「Curator」になりますが、海外の博物館や美術館では1名あるいは若干

名の「Curator」のほかに、資料登録などを行う「Registrar」や、展示を担当する「Exhibition Designer」、博物館の普及事業を担当する「Museum Educator」、資料の保存・修復を担当する「Conservator」や「Restorer」などの専門職員がいます。各国によって学芸員制度は異なりますが、一般的に「Curator」が博物館・美術館の監督権を持って展覧会の企画や研究を行っているのに対して、「学芸員」は1人で多くの業務をこなす博物館の万能職員と言っても過言ではありません。日本における学芸員とは、専門分野の知識だけではなく、展示や保存あるいは普及事業・博物館経営などの知識と技術を持ち、資料を活用できる企画力や表現力を備えている専門職員なのです。

しかし、博物館や資料館の運営は学芸員だけではできません。当館には自然分野を中心とした学芸職員だけではなく、学校教員や行政職員などがいて、それぞれが得意分野を生かして協力しながら館の運営を行っています。それによって、来館した皆様に安全で快適な学習空間を提供することができ、自然系博物館の特徴である、日常と非日常の交錯した時間と空間を体感していただくことができるのです。また、当館は日本地質学発祥の地としても知られる、国指定名勝・天然記念物である「長瀬」に隣接する博物館であり、屋内展示と館外の景観・環境が一体となった博物館であります。このような環境を生かして、当館では野外観察会や見学会などを数多く開催しており、埼玉県を代表する自然系博物館であるとともに、地域と密接に関わる博物館でもあるのです。

平成25年7月、埼玉県のホームページ上にある生涯学習ステーションに、「学芸員バンク」のコーナーが開設されました。埼玉県の全学芸員の専門分野などが掲載されていますので、専門的な知識と技術を持った学芸員を、もっと活用していただきたいと思います。

（いのうえ かつあき・館長）